

## 分数の小中接続

小学校2年生で、折り紙を同じ大きさに2等分した1つ分の大きさを「もとの大きさの $\frac{1}{2}$ という」として分数が導入される。3年生になると1mの $\frac{1}{3}$ の長さを $\frac{1}{3}$  mと書くこと、また $\frac{1}{3}$  mの2つ分の長さを $\frac{2}{3}$  mと書くことを学習する。こうした学習では、まずは基準の大きさを等分することがもとになっている。

ところで中学校1年になると、次のような文字式に出会う。

$$\frac{a}{6}, \frac{12}{x}$$

このとき、 $a$ や $x$ はいろいろな数を取りうるはずである。そこで、この $a$ や $x$ に小数を代入してみる。例えば、 $a$ に0.7を代入したり、 $x$ に7.4を代入すると次のような“分数”になってしまう。

$$\frac{0.7}{6}, \frac{12}{7.4}$$

また $a$ に-2、 $x$ に-9を代入すると次のような形になる。

$$\frac{-2}{6}, \frac{12}{-9}$$

こうした“分数”をどう解釈したらよいかは、どこかで学習するのだろうか。確かに第5学年で学習する、商を分数で表すことを利用すれば、分数をわり算に直して解釈することはできる。ただ、第6学年も含めて算数全体としては「等分」にもとづく分数の理解が優勢だとすると、そもそも上のような表記を分数として受け入れにくい生徒もいるのではないだろうか。

反比例の学習では自然に上のような“分数”が出てきてしまうことを考えると、分数のとらえ方を適宜修正しておくことも、小中の接続をスムーズにする手立ての一つになりそうである。 (参考：[中学校1年生向け分数のとらえ直し](#))

【[算数・数学教育におけるIAQに戻る](#)】